

1. 件名: 島根原子力発電所原子炉施設保安規定変更認可申請(2号炉の高経年化技術評価等)に関する
事業者ヒアリング

2. 日時: 令和6年2月14日(水) 14時30分~15時30分

3. 場所: 原子力規制庁 9階 B 会議室

4. 出席者:

原子力規制庁

原子力規制部審査グループ

実用炉審査部門

塚部安全規制調整官、岡本上席安全審査官、雨夜上席安全審査官、

日高安全審査専門職、藤川安全審査官、市川安全審査官、今田審査チーム員、

鈴木技術参与

中国電力株式会社

原子力設備 マネージャー 他7名

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. その他

提出資料:

・島根原子力発電所2号炉 高経年化技術評価 長期施設管理方針について

以上

時間	自動文字起こし結果
0:00:03	原子力規制庁の藤川です。それでは、島根 2 号炉のPLMに関するヒアリングを開始します説明の方をお願いいたします。
0:00:13	中国電力の盛田です。
0:00:16	島根 2 号炉の高経年化技術評価につきましては、昨年 12 月に、それまでの審査内容を踏まえて、補正、
0:00:26	提出させていただいたところでございますが、
0:00:30	その中の長期施設管理方針について、本日ご説明させていただきます。
0:00:37	また長期施設管理方針、一部ですね、当社の方で記載の
0:00:43	適正化充実化をした方が良いと考えるところがございますので、本日はその補考え方、
0:00:54	についてもあわせてご説明させていただきます。それでは当社のシゲトミの方から説明をいたします。
0:01:05	中国電力のシゲトミです。島根 2 号炉の高経年化技術評価の結果として取りまとめました、長期施設管理方針について、衛藤パワーポイントの資料を使って説明をさせていただきます。
0:01:15	あと次のページをお願いします。
0:01:19	1 ページ目の目次ですけれども、今回ご説明したい内容は、全部で 3 件ございます。その概要、1 ページ、次ページで、そのあと、全体項目の方を
0:01:32	具体的内容でエニポスサンポでそれぞれ説明させていただきます。
0:01:35	次のページをお願いします。
0:01:39	まず、1 ポツ変更事項の概要とか説明事項の概要ということですがけれども、まず一つ目の矢羽根で島根 2 号炉の高経年化技術評価については、
0:01:48	高経年化技術評価の結果及び審査内容を踏まえてそこに書いております 4 件、00 の箇条書きで書いております 4 件について、長期。
0:01:56	施設管理方針として取りまとめ、保安規定の変更認可申請を実施しております。
0:02:01	これらの長期施設管理方針のうち、藤都丸の箇条書きの上二つ配管の流れ加速型腐食の耐震安全性に関するもの、及びケーブルの絶縁特性低下に関するもの。
0:02:13	この二つの長期施設管理方針について、まずご説明いたします。
0:02:19	また、三つ目の矢羽根ですけれども、監視試験の実施計画に関する長期施設管理方針については、過去の審査会合で、一部ちょっと現状と、あの辺、状況が変わった説明をしていたものがございますのでその内容を説明、
0:02:35	次のページをお願いします。
0:02:39	まず 1 件目配管の流れ加速型腐食の耐震安全性に関するものです。

0:02:44	12月26日に申請しました長期施設管理方針の内容を表で示しております。
0:02:51	こちらについてあとまたちょっと詳細は次のページで説明するんですけども、その内容を反映した耐震安全性評価を実施するということで結んでおります。
0:03:02	こちらについてその耐震安全性を評価した後実際にそのあと具体的にどのように対応するかといったところの詳細化を先ほど、内堀区の方から説明がありました。今後ちょっと具体化して、変更しようと考えている内容でございます。
0:03:16	今、このステップ管理の項目等長期施設管理方針の中で対応しようと思っていることについて次のページで説明させていただき、
0:03:23	4ページ目をお願いします。
0:03:28	4ページ目流れ加速型腐食の耐震安全性に関して現状、配管肉厚測定ですとか、減肉傾向を監視した上でどのように配管の減肉管理をしていくかというのをフロー図で示しております。
0:03:41	青枠で示しているところが、高経年化技術評価30年目における耐震安全性評価の実施内容として取りまとめたところでございます。
0:03:49	その下、赤枠で囲っている部分が今後、配管減肉管理の中で実施する内容となっております。
0:03:55	この赤枠の中を、説明いたします。
0:03:58	まず、配管肉厚測定を今後実測データを反映していくということで、テストデータをどんどん採取していき、減肉傾向を監視します。
0:04:08	また減肉、余寿命が十分にあるものについては次回の監視、検査時期の設定で余寿命と5年未満に到達したところで、厚さの基準値に従って耐震
0:04:19	安全性評価を再度実施するか配管の取りかえ等を検討するかということの分岐がございます。こちらについても後程また詳細にして、
0:04:27	耐震安全性評価を再度実施するにあたって、
0:04:31	耐震補強を伴う耐震管理厚さの見直しまたは、耐震補強を伴わない耐震管理アップの見直しということで、
0:04:39	耐震管理厚さというのは現状、
0:04:44	青枠の方の一番上に記載しておりますが、40年目の想定厚さまたは公称板厚の80%の厚さというものをまず初期値として設定しておりますので、現状耐震上の必要最小厚さよりも、かなり裕度を持ったところがあると考えており、
0:04:59	そのため、減肉モデルによる再評価を行うものを、耐震補強を伴わない耐震患者さんの見直しと表現しております。
0:05:07	また耐震補強を行うことで発生応力が小さくなりますので、耐震補強をしてその結果を踏まえて、耐震再評価をすることでも、
0:05:16	より長く使えらる。

0:05:20	こちらを再度耐震評価をした上で、耐震管理厚さを再設定し、PSRと比較して、大きいほう余寿命管理における基準値と設定としてまた上に戻るといったフローになっております。
0:05:32	こちら耐震管理厚さ自体は、TSIもかなり
0:05:37	ウツミコウアノ現実化したもので評価してももつ配管というのも幾つかあるんで、
0:05:41	けども、こちらについてもTSRは、
0:05:44	終わらないように、肉厚管理をしていくということを、社内の手順書で定めております。
0:05:50	以上これらの管理を継続することで60年間の健全性が維持できると考えております。
0:05:56	次のページをお願いします。
0:06:01	次のページケーブルの絶縁特性低下に関するものでございます。
0:06:05	こちら、昨年12月に提出した長期施設管理方針の記載を、表で示しております。
0:06:14	こちら事故時雰囲気なり、機能要求されるケーブルの絶縁特性低下について、取りかえまたは実機同等品を用いて、
0:06:23	再評価を実施するといった内容になっており、
0:06:27	こちら2018年の初回申請の時からこの記載のまま申請を続けていたんですけど、
0:06:32	こちらについては全然特定低下の補足説明資料の方にも記載させていただいておりますが、その後の検討で、元利すべて取りかえるという方針になってございます。
0:06:42	このためそのあたりをちょっと明確になるような記載の適正化を考えております。
0:06:51	次のページをお願いします、
0:06:55	最後に6ページ目ですけれども、当監視試験の実実施計画に関する長期施設管理方針について説明いたします。
0:07:02	それと昨年12月に申請した時点の長期管理方針について、同じく上段に示しておりますが、本件に関連して一つ目の矢羽根で示している通り、
0:07:11	2018年3月19日の審査会合において、次回の監視試験は運転開始後40年時点までに実施する計画ですと。
0:07:23	監視試験については弱4201に基づいて次回の監視試験式を後、当時想定したところ、
0:07:29	次回の実施時期である24Fイワイの時期が運転開始後40年よりも前であったため、当時の説明とな説明内容となった。
0:07:39	でも、
0:07:39	二つ目の矢羽根に記載しております通り長期停止期間が継続したことから、現時点で考えれば第3回の監視試験は、運転開始後40年時点よりは後になる見通しとなっております、

0:07:51	当社島根 2 号炉はまだ 40 年を超えた運転延長について判断しておりませんが、この判断は、40 年経過までには実施いたしますので、それを踏まえて次回となる第 3、
0:08:01	監視試験の実施計画を策定すること。
0:08:04	そして、長期施設管理方針として、
0:08:09	以上で衛藤書記。
0:08:20	はい、説明ありがとうございます質問コメント等ありましたら、お願いいたします。
0:08:52	規制庁のフジカワですちょっと教えていただきたい
0:08:58	3 ページと、
0:09:00	4 ページに、
0:09:03	ここで、
0:09:04	耐震上の必要厚さという単語が出てきてるんですけど、
0:09:09	当クルーズ見ると耐震管理やつは、耐震上の必要厚さに余裕を持った津波っていうふうになってるんですけどこの耐震上の必要厚さっていうのは、
0:09:18	いわゆるTSRと別物。
0:09:21	どういう理解でいいんですよね。
0:09:24	中国電力のシゲトミです。はい。ご認識の通りで別物でございます。
0:09:33	はい。
0:09:35	PSRとはまた別の話で耐震上の必要厚さは耐震安全性評価を満足するぎりぎりの厚さと思っていただければと。
0:09:44	当社は耐震管理者として 40 年目の想定秋田というのと公称板厚の 80%というのを暫定的に設定しておりますので、
0:09:53	実際に耐震上もっと薄いところでも、評価は成立するんですけど、そこに行くまでにタダノ、厚さの設定の変更ですとか、かなりの解析を繰り返し、
0:10:08	あと、
0:10:11	そういうのを今回、
0:10:14	それに対する対処
0:10:19	中国電力盛田です。補足しますと、TSRの方は、日本機械学会の設計建設規格の規格の式に基づいて、
0:10:29	内圧に対して、配管が持つ限界の厚さということになっております。以上です。
0:10:39	規制庁藤川です。わかりました。だから、
0:10:42	この赤枠で見込まれたやつでTSRルーに対しては問答無用で取りかえ、または補修に行く。
0:10:50	てことです。はい。
0:10:56	規制庁日高です。江藤。ちょっと事実確認を。
0:11:02	策定 5 から運転開始後 40 年時点までと記載されてるんですけども、この策定後っていうのを具体的に、

0:11:10	何か、
0:11:14	この長期施設管理方針の始まり式を策定後としているものは、
0:11:21	申請は補正申請にて追加した項目。
0:11:26	に対して、式を策定後としております。こちらにつきましては、高経年化技術評価の保安規定の認可いただきましたら、速やかに
0:11:40	策定を社内的に策定をするという、
0:11:44	ことで、策定事を今しております。認可後速やかにというのが、その意味でございます。
0:12:01	次にですね、
0:12:04	県に行く。
0:12:05	減肉の傾向監視Cについて、どの程度サイクルっていうか、期間で考えていらっしゃるんでしょうか。
0:12:28	中国電力の神原です。今のご質問は、その点、どの期間で、減肉評価、厳格測定を行っているかというご質問等、理解しています。
0:12:39	ちょっと今手順書の方に書いているはずなので、少々お待ちください。
0:12:49	中国電力のシゲトミです。補足説明資料の、耐震安全性評価の別紙 6 の 65 ページに、余寿命を踏まえた次回検査時期の徹底という記載が、
0:13:05	はい。
0:13:11	た。
0:13:18	平面。
0:14:07	はい。
0:15:40	原因。
0:16:13	すいません。衛藤サカイいたします。衛藤。
0:16:15	戸部氏、耐震安全性評価の補足説明資料の別紙 6-65 ページお願いします。
0:16:46	こちらに図 7 としまして当社のKS文書より抜粋しております余寿命に応じた次回検査時期の設定という図がございます。
0:16:56	こちらに記載しております通りですね、実際に測定した余寿命に対して表の中ほどにありますBCDのいずれか早い時期と、
0:17:06	ということで、余寿命が 5 年となる時期
0:17:09	または余寿命が、衛藤二分ノジマの 2 分の 1 が経過する時期として 50 年というところを基準に設けてそれぞれ計算をして、そこそこから次回の検査時期、
0:17:23	=最小値-1 年と一番左側に次回検査時期アノて、こちらについて提示原単位、アノサイトウ
0:17:30	で、次の測定時期をいつにするかというのを、余寿命 5 年以上については定めております。
0:17:36	そしてその下に、図 8 として、4 時便に応じた措置の具体例とあるんですけれども、5 年を下回りますと、今度は、

0:17:46	15ヶ月以上5年未満といったところ、耐震管理者基準が、中ほどにあるんですけども、案で土佐対策の計画の策定、15ヶ月未満でその対策の実施、
0:17:57	そういった流れで、次回の肉厚
0:18:01	そのあとの対策の実施については、手順で定めて、運用管理することとしており、
0:18:05	以上です。
0:18:13	はい。
0:18:15	ありがとうございます。
0:18:17	ここですねえと。
0:18:20	フローに書いてあるのは、余寿命5年未満到達の話。
0:18:26	なんでしょ
0:18:32	そういう理解でよろしいでしょうか。
0:18:36	中国電力のシゲトミです。はいその通りで5年未満になったらその下の計画が入って実際に耐震患者さんの見直しですとか対策の内容に入って、
0:18:47	その手前のところで余寿命の算出次回検査時期の設定ということで次回の検査についてはすいませんその上の一つ上の四角でまとめて記載をさせ
0:18:59	はい、ありがとうございます。
0:19:00	これ仮に、
0:19:02	10年、10年で、
0:19:05	検査して、
0:19:07	その余寿命5年未満に到達しない場合っていうのはどうなる。
0:19:23	中国電力盛田です。それはその時に、計測した。
0:19:29	厚さを基に、その時点での余寿命を算出して、別紙6-65の上の表に従って次回の検査時期、
0:19:40	また定めると。
0:19:42	ということになります。
0:19:54	はい、ありがとうございます。
0:19:57	衛藤。
0:19:59	この
0:20:01	その耐震管理圧さあ、
0:20:04	見直すっていうふうにあるんですけども、その具体的にどう見直すのかっていうのがちょっとよく、
0:20:12	例えば10年だったと。
0:20:15	2、
0:20:16	それ、どう見直すんでしょうか実測チーを拾ってるわけですよ。
0:20:23	10年っていうところで実測値を拾ってるので、その耐震管理厚さをどう見直すのかっていうのがちょっと、
0:20:32	よくわかる

0:20:37	1億年カンバラです。余寿命が10年だったときのときに、田井主幹のやつはどうやって見直す。
0:21:01	どういう値に見直すかということについては、先ほどの耐震、
0:21:08	その1個前の耐震、
0:21:10	上の必要あった。
0:21:12	よりは厚い厚さ、
0:21:14	ではあるが、もう今の耐震カワセよりは薄くなっちゃうけれども、その耐震上、
0:21:20	必要な厚さよりは、厚い厚さというようなところを直す。
0:21:26	肉厚に見直す。その他光圧を、
0:21:30	当然そこにはTSRとの関係性もありますけど確かに厚さだけで言う申し上げますと、今みたいな、
0:21:36	ヤマダアノ薄くすることができますので、そういう薄くするように見直します。
0:21:46	衛藤。
0:21:48	実測値を拾った時点で、その実測値が出てくる
0:21:54	そうした時に、その管理、
0:21:57	40年目の想定厚さっていうのは、
0:22:01	どうなのその実測値に対してどう
0:22:12	カンバラですけども、
0:22:13	中国電力の神原です。実測値が耐震管理発生より厚い場合であれば、耐震化のやつは何も見見直す必要はないと。
0:22:22	ないので見直さないです。
0:22:26	で、その実測値。
0:22:29	はい。
0:22:30	中国電力盛田です。ちょっと補足します。今、カンバラが、と実測値が耐震管理厚さより厚ければ見直す必要ないと言いましたけども、
0:22:41	余寿命が5年未満ということになれば、このフローに沿って見直すわけです。じゃあどういう値に見直すかというのは具体的に決めてないんですがさっきカンバラが、
0:22:53	耐震上の必要な厚さより上は当然確保した上で、今の管理値と限界の管理値の間っていう説明をしましたけども、例えばそれが公称板厚の70%とか60%とか、
0:23:07	また、場合によっては、TSRとイコールになるようなケースも、いろんなケースがあらうかと思うんですが、
0:23:14	どういう、
0:23:16	値に見直すかというのは現状で特に決めておりませんで、実態としては神原が言いましたように、
0:23:26	今の熱田より少し余裕シロを削って
0:23:31	限界値は終わらないまでも今夏より少しゆるい、熱田に再設定するという事を考えてます。以上です。

0:23:45	はい、ありがとう。
0:24:07	規制庁鈴木です。今のに関連して1点確認したいと思います。
0:24:13	このV字づらだけを見るとですね私
0:24:17	説明された考え方自身は
0:24:21	特に異議を申し立てるつもりはなくて、表現の
0:24:25	作文っていうか用語の使い方っていうので、これだけでわかるかなあ余計なあれを、
0:24:31	抱かせることはないかなあと思うのが2、3あったりして、例えば、
0:24:35	例えばですが今まさに今ヒラガ、
0:24:38	呉お尋ねしましたこの耐震管理ヤスタの見直しっていうのは耐震化入札二つの要素があって、想定に足すと公称板厚の80という、
0:24:48	バリエブルのやつと、フィックスの値が、
0:24:51	組み合わせさせてんですよね。だから見直すっていうのは、朝田公称板厚の80%を見直すんじゃなくて、ここは想定板厚を見直すってことなんですよね。耐震管理ヤスタって書いてあるけれども、
0:25:02	括弧して想定タツノ見直しだった方が、ある意味で、わかりやすいのかなあというのが一つ。いや、あんまり言う分解するよりは包括的な用語の方が、
0:25:13	いいんじゃないかとかっていうお考えがあるのかもしれないけど、
0:25:17	物事の論理の組み立てを見ると、
0:25:21	これをすなわち40年目想定+を見直すことになるという、
0:25:26	ふうに理解すれば、
0:25:27	いいんですよねここ。
0:25:39	中国電力盛田です。最初に、耐震圧管理厚さを策定決定する場合は、ここに書いてある通り、
0:25:49	その時点での40年目の想定厚さと、
0:25:53	公称板厚80%の厚さの小さい方で決めるんですけども、
0:25:58	イセ、いざ実際に余寿命が5年未満になって見直すときは、
0:26:03	40年のバリエブルな方を変える。
0:26:07	講習委託80はもうフィックスのままというわけではなくて、もう耐震管理厚さ自体をですねこの考えとは別に、もうある値に見直すということを考えてます。
0:26:22	はい。
0:26:23	以上です。
0:26:32	規制庁鈴木です。ちょっと私が今までいろんなサイトの或いはこんな同様な評価手法をずっと検分してきたんで今の、
0:26:43	御説明がえっと思ったんですけど、
0:26:45	交渉の板は10%まで動かす余地があるっていうんですか。
0:26:50	本当にそうですか。

0:26:56	はい。中国電力の神原です。衛藤。はい江藤交渉いたII-80%で決まっている耐震管理アサノモデルもありますので、そういったモデルについては見直すときには、
0:27:08	交渉の例えば70%になるというものも今後出てくると。
0:27:13	いうふうに考えております。ただし別に交渉の70%の厚さになったとした、しても、当然TSRよりは大きい。さらに、その耐震上を耐震
0:27:24	上必要な厚さよりも、
0:27:26	厚い厚さにはそこは変わりはないんですけれども、
0:27:32	この80%の熱田側が、
0:27:34	でき、今は30年PMとしては決めた値が、
0:27:38	それがカワノ下がる時に8%が変わるものもあります。
0:27:42	以上です。
0:27:50	規制庁鈴木です。今のお話聞いてもちょっとう。
0:27:54	しかないんですけど、そのバリエーションなものばかり組み立てると、何とでもなるっていうような、いかようにも対応
0:28:02	ということをおっしゃってるんですね、その場に応じて、その状況を見て、
0:28:08	それで使えそうなところは全部コウ使って組み立てると、そういう平たく言えばそういうような、
0:28:15	お考えということですね。
0:28:17	そうするとですね私が理解してる、例えばPW3の基本思想がはっきりしてて、
0:28:24	tsrで技術基準で要求される耐圧状の低層で耐震をキープするように、一元管理、現場が、
0:28:33	一元管理するってのが一番現実的だということで可能な限りサポートを追設したり、材料を低合金高野さんステンレスまで入ったりしながら、
0:28:44	そういう仕組みを作ってるんですね、スキームをですね。
0:28:48	それに対して今のお話はですね、
0:28:50	使えるものはアノよな、
0:28:53	その都度、
0:28:54	変えるっていうと、どういうときにどうなるっていうのは、いろんなケースがあり得るわけですねそうすつとね。
0:29:00	ちょうどその基本的な
0:29:03	背骨の花Cがちょっと、
0:29:05	私今見えなくなってきたて、
0:29:08	基本的な
0:29:10	ものがあるてしかしながらこういう場合はっていう、
0:29:13	もうちょっと今、見えなくなった。
0:29:20	中国電力盛田です。おっしゃられる通り、PWRのように、
0:29:26	TSRで一元管理していけば、
0:29:30	非常に管理はわかりやすい。

0:29:33	のだろうと思うんですけども、島根 2 号機については耐震条件が厳しいものでPWRと同じように、
0:29:45	tsrで管理することが現実的ではなかったので
0:29:51	最初に管理厚さ、
0:29:54	このように設定して、
0:29:58	することとしました。背骨の話なんですけど、まずこのフローに従って管理をしていきます。
0:30:05	ただし、じゃあ見直すときに、どういう数字に見直すのかというのが、ちょっと何かこうもやっとした説明にはなってるんですけども、見直す数字というのは必ずtsrまたは、
0:30:18	耐震上の必要厚さ限界の厚さは必ず満足して、する数字に見直すので、
0:30:26	そこで背骨というか、筋は通ってるものと考えております。以上です。
0:30:35	規制庁日高です。
0:30:37	今のお話だと、その短針管理圧さあの定義している。
0:30:43	40 年目想定厚さ、公称板厚の 80%厚さのどちらか小さい方というところが崩れるという考えでよろしいですか、評価をください。
0:30:57	を中国電力モリタです。場合によっては、崩れるケースというのは発生します。
0:31:06	以上です。
0:31:20	なのっ
0:31:23	規制庁都築です。もう 1 点、再確認させてください。
0:31:27	配管系配管減肉が起きるような関係というのは、基本的には格納容器の中のものとか、
0:31:35	あり得ると思うんですけども、
0:31:38	今BWRの場合は偏流部が、
0:31:41	格納容器の中のSクラス、クラス 3 配管に動力の偏流部があって云々というのはまた大きな
0:31:52	検討の余地のあるところなんですけれども、今この耐震管理者っていうのは、格納容器の中であろうと外であろうと。
0:32:00	想定される短足を配管には適用するという、
0:32:04	中と外の使い分けはしないんですよね。
0:32:08	はい中国電力の神原です。はい。ご認識の通りPC、格納容器の中と外での区別はしておらず、
0:32:17	担保配管の流れ加速型腐食が生じる可能性のある短そ配管が対象になります。以上です。
0:32:44	規制庁藤川です。衛藤。
0:32:48	5 ページのケーブルの話は衛藤。
0:32:54	会合でもあった話ですよ取りかえが被災評価っていうのでも取りかえにするから、それを明確
0:33:02	な評価寿命なので 37 年までに、

0:33:05	ドイ変えますということで、
0:33:10	d、監視試験の方なんですけど、監視試験は、
0:33:16	トダから、最初の濃い、2018年の会合では、
0:33:21	24FEMPIIになるのが40年時点前見込みだったけどそうじゃない。
0:33:27	なくなり、理想だということで今、
0:33:31	19EFtyぐらいでしたっけ。
0:33:40	中国電力のスミエですはい、おっしゃる通り、約19家イワイ。
0:33:45	それから40年考えると、
0:33:49	24ftEMIIには達しないだろうということです。
0:33:54	で、
0:33:55	40年時点、
0:33:59	次の浸水40年の計画、長期施設管理計画みたいな申請をもしされる場合は、
0:34:08	一緒か。
0:34:10	その時にはだから、ある程度具体的にいつごろやりそうやりますみたいなことを示していただけそうなんですかね。
0:34:20	運転状況次第かもしれませんが、
0:34:23	そうですね。あ、すみません、中国電力のスミエです
0:34:28	40年迫ったときの状況次第では、おっしゃる通り状況次第ではあると思うんですけどその時の状況に応じて、
0:34:34	いつ頃っていうのは、示せるか
0:34:37	考え
0:34:39	わかりました。ちなみに、
0:34:41	細かいところで矢羽根三つ目のところ、40年時点までに監視試験を行うことはないかって言い切って、
0:34:48	これでいい。
0:34:50	実際そうなるんだらうなと思うんですけど、
0:34:55	中国電力の驚見です。はい。一応、今の再稼働時期と、先ほど言ったアノ受
0:35:04	で1サイクル当たり1Fイワイで、
0:35:08	それとあと、
0:35:09	4サイクル
0:35:13	通常の運転期間を仮定すると、40年は、
0:35:17	超えるのは間違いないと。
0:35:22	わかりました。
0:35:28	規制庁日高です。
0:35:30	5ページのちょっとケーブルについて確認させてください。
0:35:35	あと1点なんですけども、
0:35:37	この形ブルーの長期施設管理方針の
0:35:42	この

0:35:45	実施時期なんですけども、
0:35:48	これ、もし、
0:35:51	直接管理方針を見直すのであれば、始まりの時期っていうのも見直されるのかなというふうに考えてたんで、
0:36:00	それに対してはどういう
0:36:05	中国電力の盛田です。もともと、こちらについては、当初申請の時に、
0:36:13	へ、今こちら表の下※1 で書いてる通り、平成 31 年 2 月 10 日から 10 年間と。
0:36:20	しておりましたが、
0:36:23	見直すとすればですね、
0:36:27	この始まりについては、変えず、周期、最後、
0:36:34	37 年時点ということにするのが良いかと考えているところです。
0:36:47	すいません。
0:36:50	なので、これ、昨年 12 月の補正で追加した長期施設管理方針については、始まるよう策定後からとしておりましたが、
0:37:02	もともと当初申請であったものについては、社内的にですね社内自主的に取り組みを
0:37:11	方針を策定して取り組んでおりましたので、始まりについては申請時のものから変える必要がないのかなと、現在考えているところです。
0:37:32	と規制庁フジカワです他に質問コメントありましたらお願いします。
0:37:50	規制庁岡本です 4 ページのフローでちょっとわからなかつ、うまく読み取れなかったので教えていただきたいんですが。
0:37:58	まず、赤枠の冒頭ですね、余寿命算出とありますが、これは何に対しての余寿命なんでしょうか何に対してというのは、
0:38:11	耐震管理厚さなのか。
0:38:14	PSRと比較し、大きい方をとった。
0:38:18	余寿命管理に対する基準値なのか。
0:38:32	と中国電力のシゲトミです。
0:38:34	どちらにも該当するというのが回答となります。TSRと対比一番上の時点での耐震管理役として 40 年目の想定厚さと公称板厚の 80%の厚さ、
0:38:47	というものをそれぞれ比較して、大きい方を、に対して、測定した結果で、その減肉率を出して、余寿命を算出すると。
0:39:00	規制庁オカモトです。だから大きい方なんですよね。
0:39:04	はい。
0:39:05	ただですね、すいません、私素人なんで、このフローを初めて見た人が見ればですね、上から下がってくるので、この余寿命算出って、
0:39:17	耐震管理厚さに対する余寿命算出にしか見えないんですね。
0:39:22	そこは明確にさせていただけますか。

0:39:28	中国電力のシゲトミです。はい、承知いたしました。このヨシノさんのところにTSRと比較して大きい方というのがわかるように注記を追加するなり検討いたします。以上です
0:39:40	規制庁岡本です。ちゃんと見えるようにしていただければいいんですけど。
0:39:45	何となくですね、
0:39:48	ナカの部分は、配管肉厚測定減肉傾向監視はいいんですけど、
0:39:54	やっぱり早い段階ですね、TSRと耐震管理厚さを比較して、大きい方を基準値として余寿命を評価する。
0:40:06	で、
0:40:06	入れるべきだと。
0:40:09	見ますと、
0:40:10	で、その下にこう下がってきて、
0:40:14	マツダの基準値MACCS
0:40:17	ここで、大きい方って言うんですけど、これがちょっと遅いんですね。
0:40:21	で、ここは、戻ってもいいんですけど、
0:40:26	TSRですか、イエスorノーで、プロを引くのが普通で、
0:40:32	そうですね普通のフローチャートの書き方だと、ちょっとそうになっていないんですね。
0:40:38	で、TSRの方が多ければ、
0:40:42	直ちに取りかえに行くわけ
0:40:47	ノーで、
0:40:49	耐震管理厚さの場合なんですけれど、
0:40:52	耐震再評価っていうのがわからなくて、
0:40:55	再評価するっていうことは、
0:40:58	耐震基準長も変えてるんじゃないんですか。
0:41:01	耐震管理厚さを、
0:41:09	はい。中国電力の神原です。この耐震再評価の時には、耐震管理厚さをまず見直して見直した値で、モデルを作っ解析モデルを作ってその再評価を行う。それで成立すれば、
0:41:23	右二つの補強すればその見直しできる補強もいらなくて、見直しだけで終わるものもあると。
0:41:31	でも、耐震管理安さを見直して、それでも成立しないというようなモデルが生じた場合には、そういう再評価した結果、
0:41:40	そういう結果になった場合はもう取りかえ、耐震化率の見直しとか行わず取りかえを行うと。
0:41:47	いうふうなことになるしますのでこの耐震再評価は、まずは耐震患者数を見直して持つナカマタないのか、いうところを見るような評価になります。以上です。
0:41:57	CTO岡本です。今言われたこと、何も否定してないんですけどね。

0:42:03	耐震管理厚さを見直して再評価して、成立性率っていうフローを書くのが普通じゃないですか。
0:42:12	私、やられてることを、何も変えろとか、否定してるわけじゃなくて、普通にわかりやすくフローを書いてくださいっていうことだけ申し上げたかっただけです。
0:42:23	私からは以上です。はい。中国電力の神原です。今の後、後、いただいたコメントについてはその方がわかりやすいと思いますので、ここをもう少し、
0:42:33	他のように見直したいと。
0:42:35	思います。以上です。
0:42:48	すいませんツカベですけど。
0:42:51	私はどちらかというと耐震管理厚さを変えるということそのものがやはり、先ほど来話が出ているように、
0:42:59	おかしいと思っていて、評価としてその技術基準の適合性をす。
0:43:04	40年目時点での技術基準適合性そのものを説明し切って、
0:43:10	ない評価においてですね。
0:43:12	最終的にどの辺りに開発をするかわかりませんというような、
0:43:17	答えもありましたし、
0:43:20	そういう技術基準にずっと40年で適合するんですかっていうのは保証されてない気がするんですよ。
0:43:26	そもそもその、
0:43:28	耐震管理厚さっていうのは、
0:43:30	これを動かさないという前提で、最初、
0:43:34	これを下回ったら当然、交換なりもしくは、
0:43:39	補強工事なりするという前提の数字だと、入れば話ストーリーとして成り立つと思うんですけど、
0:43:46	それを下回ったら、
0:43:48	再度評価して、その耐震上必要になったという、どこでも明らかにされていない数値よりも上だから、上で再設定すればいいんですというのは、
0:43:58	ちょっと
0:43:59	論理的に若干破綻しているような気がシアノとか少なくともこの
0:44:05	ちょアノ。
0:44:07	顧客評価の耐震評価として完結していない。
0:44:11	じゃないかなと思っていて、
0:44:14	そういう意味で本当にこの、
0:44:16	耐震化のやつの見直しという手続きが、
0:44:19	発生し得るのかということと、本当にこのフォローが必要なのかというのは、
0:44:25	疑問ですというのが一つと、先ほどのそのフローの話でいうと、
0:44:29	やはり、PSRの話と、
0:44:32	ごっちゃにすると非常にわかりにくくなって、

0:44:36	今管理、耐震管理厚さのお話、今ですね、実際事業者さんがこういうフロー。
0:44:42	組まれているのであれば、
0:44:45	それはしょうがないのかもしれませんが本来はTSRの話と、完全に独立して議論した方が、
0:44:53	中身の議論ができるのかなという気がしています。
0:44:57	はい。
0:45:01	中国電力の盛田です。
0:45:05	まずその耐震管理厚さというのが40年目の想定厚さを使っていますので、想定通り、
0:45:11	減肉すれば、当然40年までは見直す必要はないんですが、
0:45:18	想定以上の
0:45:20	減肉が発生したり、また40年を超えた場合は、見直す必要があるで見直すと当然ですね。
0:45:29	40年のほか、交渉80%の方から、どちらか。
0:45:33	の数値、また、40年の方であれば、嘘そもそもがもう40年の送達じゃなくなる。
0:45:41	ない値に見直すので、この考え方は変わりますが、ただし、
0:45:49	玄海の耐震上、必要な最小厚さ、またはTSRは下回らないように、
0:45:58	するという方針はお示ししていますので、
0:46:03	我々としては技術基準の適合性はずっとこれで担保しますという説明ができてるのではないかと考えているところです。
0:46:16	はい。
0:46:31	それで、TSRと、耐震管理厚さ、
0:46:37	このまぜてというか一緒に
0:46:40	格闘
0:46:41	別々にして、管理していくべきものなので、
0:46:46	という話についてはちょっとこのフローですね社内的に決めているフローですが
0:46:51	管理はこの通りやっていくんですがちょっと説明の仕方については、先ほどのコメントも踏まえまして少しわかりやすく、
0:47:02	したいとは考えております。以上です。
0:47:19	わかりましたって、多分、
0:47:21	そこは会合で議論する、するところかなと思いますので、
0:47:25	ただその耐震上の
0:47:28	必要厚さというワードが多分どこにも出てきていなく、
0:47:32	ですね。
0:47:33	実際評価して、
0:47:35	直しますというのも、どういうことか明らかになっていないので、
0:47:40	なくとも、

0:47:42	教科書としては、
0:47:44	足りていないんだろうと。
0:47:57	その1年私自身はその40年目の想定厚さというのもある程度、
0:48:02	補正を積んでいるのだと思っていたので、そこに至らない形で、
0:48:08	管理、
0:48:09	あと、
0:48:10	そして5年なので、
0:48:13	そう管理されるのかなというふうに思って。
0:48:17	先ほど、
0:48:32	中部電力の神原です。江藤今野耐震管理アサノ40年目までで変える可能性っていうのは、今のフローとか今の手順では、変えることもできるような管理をしていこうというふうにはなっているんですけども、
0:48:46	実際は、その40年目までにその耐震、今から減肉することもないっていうのと、そもそも40年目想定後のパワーポイント4ページの右に、
0:48:56	保守的に設定してますとかっていうふうに保守的な内容が記載してますけど、すごく保守的に決めているので、
0:49:04	まずここを40年になるまでに、耐震管理厚さを見直すようなことは、ないというふうには考えております。
0:49:11	ただ60年目までということ踏まえると、
0:49:15	60年に至るまでのところで、確かにヤスダっていうのは、例えば50年目の時にちょっと変えないといけないというようなことは生じてくるかなというふうには思っております。以上です。
0:49:36	そこも気になって、
0:49:38	言っているんですが、その
0:49:40	当然、今後どうされるか、キノシタさ。
0:49:44	が考えられることだと思うんですが、
0:49:47	その新しい制度に、
0:49:50	また、60年目まで見てどうするんだという話をする際にですね、
0:49:57	そのとき、
0:49:59	このままで本当にとるのかというのが、
0:50:02	気になっていまして、
0:50:07	実質その、
0:50:09	ハード対応をどの程度、
0:50:12	お考えなのかなというところだと思うんですけど。
0:50:15	少なくとも、今まで、
0:50:18	見ているPM、
0:50:20	において、このように
0:50:22	な形で管理されているという例は多分ない。
0:50:28	本当にこのままこういう、ある種、ソフトの管理、
0:50:34	十分カバーできていくのかという

